

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3190100374		
法人名	株式会社 わかば		
事業所名	グループホームわかばの家福部		
所在地	鳥取県鳥取市福部町湯山1433		
自己評価作成日	平成24年9月24日	評価結果市町村受理日	平成25年1月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	鳥取県社会福祉協議会		
所在地	鳥取県鳥取市伏野1729-5		
訪問調査日	平成24年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>少人数の受け入れで、利用者様を理解し細やかな気配りと、家庭的な雰囲気に対応している。地域の方と交流しながら、楽しんでいただく。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>鳥取砂丘近くで民宿などがある閑静な住宅街にあったペンションを改装して開設したグループホームで、開設から丸2年が経過しました。 この間地区自治会へ加入して地域活動参加、そして運営推進会議での意見などを活かして地域住民との積極的な交流を進められ、次第に近隣住民が気軽にホームを訪ねて来られるなど地域の一員としての日常的な交流やおつきあいが深まりつつあります。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事務所に掲げ、職員が常に意識できるようにし、実践に努めている。	理念は「①一人ひとりの個性を大切に利用者に笑顔で過ごしていただく②地域住民とのふれあいを重視」が昨年12月に作成されました。食堂兼談話コーナーに掲示されています。	職員の共有化を図るため唱和等が検討されていますが、機会をとらえて常に意識できる取り組みに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区の自治会に加入し、納涼祭や清掃等の行事に参加し交流を持っている。	地区自治会に加入して清掃や納涼祭へ参加されています。近所の方が訪ねて来て話されたり、農作物をいただくなど日常的な交流が行われています。福祉理美容ボランティアの定期的な訪問が行われています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の委員と情報の共有を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度の会議で活動状況を報告している。そこで頂いた意見を活かしてサービス向上に努めている。	運営推進会議は区長、民生委員、市福祉課、地域包括支援センターなど8名で2か月ごとに地区公民館で定例開催されています。梨狩りの実施や避難訓練への自警団参加が提案されるなどサービス向上に活かされています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーであり活動状況報告を行っている。その中で相談、助言を頂いている。	介護保険手続きや利用者の状況について、日頃から市総合支所担当者や地域包括支援センター職員に相談や助言をいただくなど連携が取られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の安全を第一に考えながら、利用者寄り添い、職員の連携、見守り、声かけを行い、身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束防止について勉強会を開催されるなど、安全委員会が中心となって全職員で取り組まれています。玄関は施錠せず、センサーで出入りが分かるようになっており、利用者が外出される場合は寄り添われています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が見過ごされることがないように、課題が起これば会議等で話し合うようしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修、学習会などで学ぶ機会は設けられていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約内容、重要事項の説明、また、改定等の説明を行い、家族の不安や疑問を尋ね説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、意見や要望を聞く機会を設けている。また面会時などいつでも話して頂けるように心がけている。	家族会の開催(年2回)や家族の面会時に意見や要望聞き取りの取り組みがされています。意見箱は玄関の見やすい所に設置されています。利用者等からの冬場に寒いとの声を基に玄関の二重扉が新たに設置されました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設内会議を月1回開催し、職員の意見や提案を聞く機会をもうけ、運営に反映できるように心がけている。	管理者は毎月の福部会議などで職員からの意見や要望等を聞く機会を設け、休憩場所の確保などの業務改善が図られています。職員異動もほとんどないなど利用者との馴染みの関係に配慮されています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の向上心、やりがいを持って働ける環境づくりに努めているが、給与や職場環境など十分でないことがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修などの取り組みを、内外ともに積極的に行い、個々で働きながらトレーニングに努めていると思う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	希望者には交流の機会が設けられていたが、今のところ行えていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が不安に思っていることに耳を傾けながら、ここは安心、安全に過ごせる場所だと思ってくれるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い、これまでの経緯、不安なことに耳を傾け、安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ペットや車椅子等の必要性を考え、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事など出来ることは積極的にして頂き、共に生活していると感じて頂けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診の際等に情報交換している。必要に応じて家族に連絡をとったり、面会に来て頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	気軽に面会に来て頂ける環境にしている。買い物や興味をもって頂ける様など外に出支援を行っているが、本人の好きな処や自宅近くなどへの支援は検討しているが、実行に到っていない	馴染みの関係継続ができるよう、入居時に聞き取りがされています。友人や親戚の訪問、家族による外泊の実施、職員と一緒に自宅の近くまで車で出かけるなどの支援に努めておられます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考慮し、定期的に席替えをしコミュニケーションが取りやすいよう努めている。困難な方は職員が間に入り、関わりが持てるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院の方のお見舞いに行ったり、家族と連絡を取り相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや暮らし方の希望、意向について日々の会話からくみ取り、把握できるように努めている。	本人や家族との話し合いから一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努められています。意思表示が困難な方へは本人の様子や家族から把握に努められています。また、日々の会話から思いを汲み取るように努められています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族に伺ったり、日々の会話の中で把握出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康チェック、関わりの中で、状態の変化の気づきや出来事を記録し把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議にて本人の現状からより良く暮らすための課題を取り上げ意見交換している。	本人や家族の意向をもとに介護計画が作成されています。担当職員が日々の状況を記録し、毎月のケア会議で評価が行われています。家族の面会時に随時担当者会議が開催されています。計画見直しは3か月ごとで行われています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事など個人記録に記入し職員間で情報が共有できるように申し送りして、実践や介護計画に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズに対応できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の納涼際に参加したり、地域の砂の美術館に見学に行き楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診、往診の際は利用者の状態を医師や家族に充分伝え行っている。受診は家族に対応して頂いているが、急な時は職員が対応したり往診して頂いている。	利用者ごとのかかりつけ医を把握して支援されています。かかりつけ医の定期通院については家族対応、ホームへの往診が行われています。医務記録は看護師が家族からの聞き取りで作成され、全職員で共有されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的なことは常に看護師と情報交換を行い、状態変化の場合は相談し、受診の必要な判断や助言を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は医療機関と情報交換を行い、情報を共有している。また、ケアカンファレンスで退院後の方向性について話し合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、家族、職員、主治医と話し合い対応している。	重度化した場合は基本的には受け入れないことが会社方針となっています。利用者によっては、重度化や終末期に向けた対応について家族、職員、主治医等と話し合っ可能な限りホームで支援できるよう対応されています。	重度化に向けての職員体制について検討されることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救命救急の講習を受け、急変時の初期対応に必要な手当が行えるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を行い、緊急連絡網を作成し掲示している。地区区長、民生委員を通じ地域の協力体制を築いている。	火災等を想定した避難訓練が年2回消防署の指導のもとで実施されています。夜間等の災害に備えて、新たに緊急連絡網に地区区長、民生委員が加わりました。11月には地元自警団が参加しての訓練も予定されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの個性を理解しながら、言葉かけに注意を払うよう努めている。	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねない言葉かけなどに注意が払われています。管理者が気になる場合には、個別に指導対応されています。	福部会議などで事業所全体での気づきの機会づくりについて期待します。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりに問いかけをゆっくりと、自己決定を待つように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活を送り、日常のリズムをくずさないように、本人の希望を聞きながら意思を尊重した援助を心掛けているが、希望に添えないことも多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節にあった衣類の着用や、希望の際、出張美容での散髪をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいもの、季節の物を、出来る限り提供できるようにしている。 準備や片付けができる方には、手伝って頂く。	献立表以外で誕生会など利用者の希望を聞いてメニュー変更が実施されています。配膳や片付けなどに利用者が参加されています。食事中は音楽が流され和やかに食事が楽しめるような雰囲気づくりがされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や食事摂取量を記録し、その人にあつた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけで口腔ケアを実施。昼食後はうがい程度になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄やリハビリパンツの廃止などを実施している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握され、声かけをしてトイレでの排泄支援がさりげなく行われています。リハビリパンツからパットや布パンツなど排泄の自立に向けて個別支援が行われています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	調理の際には便通に良い食材を使う等の工夫や、水分摂取の記録をとり、多く摂取して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中に限られるが、利用者に希望を聞いて入浴して頂いている。	利用者の希望をもとに一日3名程度の入浴支援が行われていますが、平均して週2回程度の入浴に限られています。	入浴できる人数や回数を限定せず、利用者の希望や意向に沿った入浴が叶えられるよう、職員体制を工夫する等、前向きな取組みを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きる時間や寝る時間は、利用者の希望に応じているが、状況に応じて休んで頂くこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬時には職員同士で日付けや名前を確認している。一人ひとりの薬の説明書を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの手伝いをして頂いている。毎月の行事や誕生会を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩や日光浴など行い、観光地や買い物に出かけている	利用者の当日の希望や思いをもとに、日常的にホーム近くのコスモス畑や公園への散歩などの外出支援が行われています。希望をもとに近くのショッピングセンターや薬局などへの買い物の外出支援も行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小銭程度をもっている方、預かっている方はいるが、買い物で使うことはない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望に応じて、家族等に電話や手紙のやり取りをして頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事務室を増築したため共用部分から外の景色が見えにくくなった。そのため気候の良い日に玄関に出て花を見たりして季節感を感じて頂いている。	玄関や共用のリビングなどの壁面には、利用者が作成された季節の飾り物などが飾られています。リビングは採光や室温などが適度に調整され、ゆったりとくつろげるよう配慮されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭く、独りになれたり、思い思いに過ごせる場所はない。席の配置などで工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や布団など使い慣れたものを使用し、季節に応じて衣類や寝具などの入れ替えを家族にお願いしている。担当職員は利用者と一緒に整理し、落ち着いた環境づくりに努めている。	居室のカーテンは備え付けですが、本人や家族と相談して家具や置物、家族の写真など使い慣れた馴染みのある物が持ち込まれ、落ち着いた居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に名札やそれぞれ違う花の絵を飾り、自室とわかるようにしている。入口には暖簾をかけ、プライバシーにも配慮している。共用部分には分かりやすく表示をし、手摺を設け、安全に出来るだけ自身で行動できるように努めている。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームわかばの家福部

目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 1日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念に対する正しい理解がされず、共有できていない	理念を理解し共有する事で、共通の認識をもちよりよいケアにつなげる	勉強会を行い、理念についての正しい理解をする 毎日理念を唱和する	12ヶ月
2	36	認知症を理解し、一人ひとりを尊重しながらケアする事が必要	一人ひとりの個性を尊重し、その方を理解しながらケアする	各担当がアセスメントし、その方を理解する 何が必要かを見つけ、ケアにつなげてより良い生活をしていただけるように取り組む	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。